

福山市老人大学 第47期 入学式 式辞

春爛漫の本日、枝廣福山市長のご出席・小川市議会議長・柳井市老連会長・池口元老大学長を始めとするご来賓・講師の先生方のご臨席を賜り、大勢の老大学生の出席をいただいで、福山市老人大学第47期入学式が盛大に挙行できますことを大変有難く嬉しく存じます。

今年度の学生数は、昨年度より5名減の2642名、新規の入学生は昨年度より12名増の284名、全学生に占める割合は10,7%です。男女比は男子34,3%・女子65,7%。最高齢は女子95歳・男子94歳。90歳以上の学生は男子12名・女子22名・計34名で昨年度より8名増えています。平均年齢は男子75,0歳、女子73,7歳、合同平均年齢は74,1歳で昨年度より更に0,1歳向上しています。高齢社会を反映し老大学生の高齢化が進んでおり、健康寿命を伸ばして元気に通学される学生が多く居られます。健康の秘訣を教わりたいものであります。

他方、体調や体力を理由に入学辞退・中途退学・年度代わりを機に卒業される方も増えています。

今年2月末、何人ものベテラン老大学生が事務室を訪れて「長いことお世話になりました。今年で老大学生を卒業させてもらいます。本当にありがとうございました」とお礼を述べてくださいました。

「そう仰らずに来年度も」とお誘いしましたが、「いや、もう十分に楽しませてもらいました。さすがに体力の限界です」と言われました。

3月にはお手紙も頂戴しました。「春暖の候、学長先生、職員の先生方、健やかでいらっしゃる事と存じます。〇〇科研究科を卒業させていただいた〇〇です。在学中は大変お世話になりました。有意義な12年間を過ごさせていただき感謝しております。老人大学の精神はいつまでも忘れぬよう努めたいと思います」。

このような老人大学への感謝の気持ちを嬉しく思うとともに自らにけじめを付けるその潔さに脱帽せざるを得ませんでした。こうした礼儀正しい人生の先輩たちの姿に接し、老人大学の果たす役割の重要性を改めて思い知りました。

老人大学の第一目的は、福山市の高齢者の「健康づくりと生き甲斐づくり」のために生涯学習の機会を提供することです。この目的と老大学生の高齢化を受けて大学運営の合言葉を「健康と安全が一番」とし、行事の実施方法などを更に改善していきたいと思えます。

例えば、10月の学生祭に使うテントは、従来の「自前のテントを自分たちで設置する」ことから「設置と撤去の作業を含めてリース対応」とします。また、学生の皆さんに安全に下校していただくために職員三人体制での誘導を継続します。

今年度の本講座は、詩吟と園芸の普通科を1クラスに減ずる一方、硬筆習字に初級科を、パソコンの普通科を1クラス増やして「スマホとタブレットの使い方」を学ぶコースを2クラス設け、加えて1年間休講していたハーモニカを再開講しました。老人大学は、引き続き高齢者の生涯学習の場としての役割を担っていくために学生の興味・関心に沿って開設教科を改めながら学習ニーズに答えていきます。

老人大学は、職業生活や子育てを終え第二の人生を楽しく過ごそうとされる方が多く集っています。同じ時代を共に歩んできた者同士としての共通性や親近感を共有できる場です。新たな友情を育むことが出来ます。従って、これまでの経歴や社会的立場を競

い合ったり詮索したりして他人の気持ちを傷つけることは、老人大学に期待されている目的に反することとなります。「前歴を問わず語らず・自慢話を控えること」は「友だちづくり」の大切なマナーです。

学級会活動や学生会活動などで意見が異なった場合は、じっくりと丁寧に互いの意見を述べ合い長い人生経験を活かして穏やかに和やかに一致点を見出す姿勢が求められます。

「この歳まで生きてきて、もう怖いものはない」という方が居られます。現役時代のご苦労が偲ばれますが、高齢者が現役世代や次世代への影響を配慮して模範的態度を示すことは、人生の先達としての責務であります。公の学び舎である老人大学とそこに学ぶ老生は、多くの市民から注視されていることを自覚していただきたいと存じます。

老生の皆さんは、単なる受講生やましてお客様などではありません。福山市・市老連・講師の先生方・先輩学生が尽力され、発展させてきた伝統ある老人大学の学生であり主役であります。

- ・進んで学習に取り組み、学級の運営に携わりましょう。
- ・学習の場としての校内秩序と環境を守りましょう。
- ・共に学ぶ者同士の輪を広げましょう。
- ・学生会活動に参加し、提案と実践を行いましょ。
- ・クラブ活動やボランティア活動に取り組みましょ。

先月 14 日、世羅町の津名地区ボランティア友の会の会員 16 名が、社会福祉協議会の紹介で本学のボランティアクラブとの交流のために来校されました。

本学のクラブ員は、

- ・高齢者福祉施設への訪問活動
- ・全学生の協力を得て回収しているリングプルとペットボトルのキャップを社会福祉協議会とNPO法人に提供して、車椅子と開発途上国の子ども達へのワクチンの購入資金に充てていただく活動などを行っている。
- ・また、それぞれの地域で、猛烈社員を退職したり子育てを終えたりして町内役員や民生委員になり、
- ・幼児向けおもちゃサロン
- ・小学生のための放課後児童クラブでの昔の遊び指導
- ・登下校時の交通安全指導
- ・地域高齢者のための「ふれあい・いきいき・喫茶店風サロン」事業
- ・「手話サークル」や「福祉を高める会」の活動に行っていることを報告しました。

世羅町の方からは、中山間地域での高齢者の見守り活動などの報告をお伺いしました。

「ボランティアは、他人のためでなく自分のためにするもの。自分が楽しいことが相手の人にも楽しんでもらえることになる」など、共に活動するもの同士の共感が広がる有意義な交流会となりました。

こうした元気な老生の公助の活動は、我が町・福山の発展に貢献するものであります。

そのような取り組みの一層の充実のためにも、「健康と安全が一番」の大学運営を果敢に行っていく決意を申し述べ第四七期入学式式辞といたします。

2017年（平成29年）4月5日

福山市老人大学 学長 高橋 和男